



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学免疫科学研究所集談会記録
Citation	北海道大学免疫科学研究所紀要, 38, 75-76
Issue Date	1978-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26514
Type	departmental bulletin paper
File Information	38_P75-76.pdf



北海道大学免疫科学研究所集談会記録

第24回(昭和52年1月11日)

皆川知紀: 麻疹を中心としたウイルス感染症の免疫.

第25回(昭和52年2月8日)

木村卓郎: 金属酵素について. とくに抗体の作用機作の面から.

関川 勲: BYU 留学報告.

第26回(昭和52年3月8日)

佐々木昭雄: The Role of Phospholipids in Lymphocyte Activation.

文献: Klaus Resch and Ernst Ferber: in Immune Recognition, edited by A. S. Rosenthal, p. 281, Academic Press, 1975.

堀川正己: ラットにおけるアルドラーゼ保有細胞の同定法.

第27回(昭和52年5月17日)

奥山春枝: 大食細胞の分泌機能と慢性炎症の病理発生との関連性について.

文献: Davies, P. and Allison, A. C.: in "Immunology of the Macrophage" ed. by Nelson, p. 427, Academic Press, N. Y. 1976.

Dannenberg, A. M.: New Eng. J. Med., 293, 489, 1975.

第28回(昭和52年7月12日)

長沢滋治: 補体系のプロテアーゼの活性化と制御.

第29回 研究報告会(昭和52年9月13日)

1. 小幡文弥: 金属含有量の異なるコンカナバリン A.
2. 佐藤 昇・塩川洋之: アデニレートキナーゼの免疫化学的研究.
3. 高沢俊英・塩川洋之: クレアチンホスホキナーゼの IEF による結果.
4. 小野寺昌彦・田中恭介: 抗 MANS 抗体: 免疫経過による抗体部位構造の変化及び IEF を用いた研究.
5. 水野佑亮・E. Ribi 他: エンドトキシンによるモルモット L-10 腫瘍の退行.
6. 坂井留女・塩川洋之: 近交系モルモットの ABA-Tyr=CFA 系に対する応答.
7. 外岡秀一・笹原靖彦・佐々木昭雄: 酵素反応を利用した NAD アナログ類の合成.

8. 西江 純: Pyrazolo pyridine 誘導体の合成.

9. 関川 勲・高橋由美子: ビペリジン環を含む葉酸アナログの合成.

10. 柿本七郎・田代美穂: 2-C-メチルリボースの合成.

11. 柿本七郎・田代美穂: 5-(o-及び p-アミノフェニル)-2,3-ジフェニルテトラゾリウム塩の合成.

12. 三村信輔: Oxazolone 接触アレルギーの研究.

13. 武田純子・奥山春枝: 抗モルモット T 細胞血清の作製.

14. 小野江和則・安水良知: リンパ球再循環における Fc レセプターの役割.

15. 奥山春枝・武田純子: BCG-CW の adjuvant 作用.

16. 奥山春枝・大石 勉: In vitro の類上皮細胞形成の試み.

17. 大石 勉: Beryllium granuloma の発生病理.

18. 石原智明・森川和雄: モルモットにみられた熱傷様皮膚症状について.

19. 山本健一・奥山春枝: 近交系モルモット JY1 と No. 13 における BCG-CW に対する免疫反応の比較.

20. 山本健一・柿沼光明: BCG-CW によるマウス肺 granuloma 形成の遺伝支配.

21. 岡田昌彦: BCG-CW ワクチンに対する granuloma 形成の遺伝支配—radiation chimera による実験一.

22. 木村卓郎: Granuloma 形成作用と体液性応答の関係.

23. 柿沼光明: A/HeJ マウスの抗 ARS 抗体の idio-type.

24. 佐々木昭雄・有馬 純: ホスファチジルイノシトールマンノシドの免疫化学.

25. 永山能為・柴田正弘: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.

26. 樽松三郎・久世彰彦: 肺結核初回治療患者における連日検痰成績.

27. 有馬 純・酒井一郎: 治療後喀痰中結核菌の形態と増殖力の変化について.

28. 有馬 純・大平昌好・柴田正弘: 薬剤耐性結核菌の保存性について.

第30回(昭和52年10月4日)

小林 博: 癌免疫.

水野佑亮: BCG Cell Wall の Mitogenicity.

第31回(昭和52年11月8日)

山本健一: Macrophage の機能の不均一性.

久世彰彦: 肺アスペルギルス症.

第32回(昭和52年12月6日)

外岡秀一: Poly (ADP-ribose) に関する最近の研究から.

文献: Y. Kanai et al. Nature, 265, 175, 1977.

柿沼光明: 免疫グロブリン遺伝子に関する最近の報告から.

北海道大学免疫科学研究所業績発表記録

(自昭和51年9月一至昭和52年11月)

細菌感染部門

1. 大平昌好・久世彰彦・有馬 純: 結核耐性培地の薬剤力価変動に関する研究.
結核, 51, 95, 1976.
2. 有馬 純・立花キヨ・高橋昭一郎・大平昌好: スライドカルチュア法によるいわゆる“塗抹陽性・培養陰性菌”培養の試み
結核, 51, 95, 1976.
3. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: 放線菌類とその近縁菌のホスファチジルイノシトールマンノシドについて.
結核, 51, 95, 1976.
4. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応 I. 実験条件の検討.
結核, 51, 95, 1976.
5. A. Sasaki and J. Arima: Phosphatidylinositol Oligomannosides in Some Actinomycetes and Related Organisms.
Jap. J. Tuberc., 20, 1, 1976.
6. 山本健一: 結核抗菌免疫, 特に BCG Cell Wall による実験を中心として.
結核, 51, 155, 1976. 結核, 51, 453, 1976.
7. 佐々木昭雄・有馬 純: 結核菌リン脂質の免疫化学的解析.
結核, 51, 217, 1976.
8. 永山能為・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応. 臨床成績-カオリン反応との比較.
結核, 51, 220, 1976.
9. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアとその近縁菌のリン脂質について.
結核, 51, 230, 1976.
10. 山本健一・柿沼光明・東 市郎・E. Ribi: BCG Cell Wall による肺 granuloma 形成機序と結核感染防禦能.
日本免疫学会総会記録, 第6巻, 286, 1976,
11. 有馬 純他: 函館で発生した肺非定型抗酸菌症について.
函医誌, 1(1), 10, 1977.
12. 山本健一: 感染免疫と生体防衛機構.
大原達編「免疫の科学」, 2, 461, 1977.
13. 酒井一郎・有馬 純: 化療後咳痰中結核菌の形態と増殖力の変動について.
結核, 52, 127, 1977.
14. 永山能為・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, 52, 146, 1977.
15. 山本健一: 結核抗菌免疫における細胞性免疫の関与, 特にアセチル化牛血清アルブミンおよび BCG Cell Wall 感作マウスにおける特異抗原静注によるその解析.
結核, 52, 146, 1977.
16. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアおよび近縁菌のリン脂質について(続報).
結核, 52, 150, 1977.
17. 佐藤俊二・有馬 純他: 難治肺結核に対する EVM の治療成績および耐性の推移.
結核, 52, 164, 1977.
18. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアおよびこれらと近縁の菌のリン脂質について.
結核, 52, 207, 1977.
19. 永山能為・西出鬼一郎・柴田正弘・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, 52, 207, 1977.
20. 大平昌好・久世彰彦・有馬 純: 結核菌薬剤耐性菌株の保存性について.
結核, 52, 208, 1977.
21. 有馬 純・小原裕光: エンヴィオマイシンの耐性実験.
結核, 52, 208, 1977.
22. 阿部政次・有馬 純他: われわれの経験した肺非定